



AED 救命講習会開催

2026年1月20日(火)午前10時から桜台自治会館2階 大ホールにて、AED(※)救命講習会が福祉部主催で開催されました。当日は姉崎消防有秋分署職員の方を講師としてお招きし、大竹会長、小櫛副会長、福祉部部长、町会から約9名の方が参加されました。講習では心肺蘇生法とAEDの使用方法について実技を交えながら丁寧にご指導頂きました。

※「AED」とは Automated External Defibrillator
AED(自動体外式除細動器)は、突然心臓がけいれんし、血液を送り出せなくなった状態(心室細動など)を正常なリズムに戻すための医療機器です。電源を入れパッドを傷病者へ装着するとまず心電図を測定・解析し、電気ショックが必要な状態かどうかを判断するようになっています。解析の結果、電気ショックが必要とされた場合にのみ通電するため、救急隊員や医師などの医療従事者でなくても、誰でも安全に AED を使用できるように設計されています。



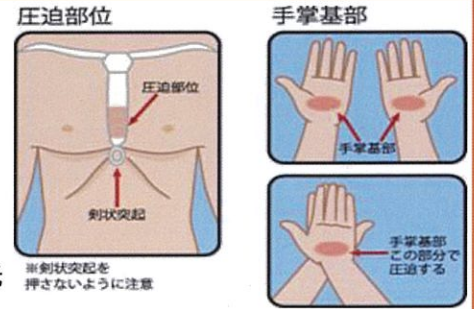
撮影協力
(広報部)
鈴木・小林

胸骨圧迫や AED の使用方法を実際に体験できた、貴重な訓練となりました。

心肺蘇生法のポイント

1. 安全を確認してから救護者に近づく
2. 体全体を確認しながら声かけ、意識の確認
3. 助けを求めながら119番通報、AEDの確保
4. 近くの人に名指しで支持をお願いする、いない場合は119番を優先
5. 呼吸の確認(胸部と腹部の動きで確認する)
6. 「強く 早く 絶え間なく圧迫」を意識して心臓マッサージ
7. 気道を確保して、人工呼吸(訓練を受けていない場合には無理に行わない)

***自分の安全が確保できない場合は、消防隊の到着を待ち無理をしない！**



AED 操作の注意点

1. パースメーカーの確認があれば避けて貼る(電気ショックの効果が弱まったり、機器の故障の恐れあり)
2. 体が濡れている時は拭いてから貼る
3. 湿布・薬剤の確認、薬剤を剥がし拭いてから貼る

以上、3点のことに気を付けてから AED 装着の準備をする

AED パッドの貼りかたは、右鎖骨下、左わき腹に貼るのが一番理想的な電気の流れ方になります
電源を入れてから音声ガイダンスに従って操作する

電気ショックボタンを入れる時は危険なので、周囲の人が体から離れていることを確認する
(AED を操作する人、胸骨圧迫する人の2人いるのが理想なので周囲に確認し協力を仰ぐ)



AED パッドの貼る位置に注意



町内ほっこりニュース

—寒い朝の思いがけない助け、水道管破裂の早期発見で大事に至らず！—

1月22日 朝、桜台はこの冬最低の気温を記録しました。町内で4件の家が水道管内の水が凍り、これにより水道管が破裂し水漏れ事故が発生しました。しかし、幸いにも早期に問題が発見され、対処されたことで大きな被害には至りませんでした。発見者は近所に住む町内の方々に、異変に気付くすぐに自治会館事務所に通報してくれました。4件の家はいずれも空き家、留守宅であったため、もし気づくのが遅れていたらさらに大きな被害を招いたことでしょう。偶然にも自治会館にはお助けマンの方がいたことや通報者の協力で、迅速な対処が功を奏しました。地域の絆と助け合いの大切さを改めて感じられたニュースでした。



*実際の画像とは異なります

最近、イノシシの目撃が増えています！

近頃、道路のり面や住宅の近くでイノシシの目撃情報が寄せられています。日本に生息するのは主に「ニホンイノシシ」で環境の変化や里山の管理不足などを背景に、生息域が広がっているようです。桜台周辺の道路のり面でも確認された情報が上がっています。2023年10月に有秋東小学校付近でも出没したという情報も市原市から報告されています。イノシシは鼻がとても良くきき、田畑を掘り起こし、餌を探します。稲、野菜、果物はもちろん、餌になる生ごみや放置された野菜くずなどがあると繰り返し出没する原因になります。今回はイノシシの特徴、遭遇した際の適切な対応について調べてみましたので参考にしてください。



【イノシシの身体的特徴】 優れた嗅覚を有する鼻は感覚器としてだけでなく、のり面を掘り起こしたり、重い石等を動かしたりする際にも使用する。鼻の力は非常に強く、時に50～70Kgの物を動かすことがある。体長は120～150cmで体重は50～100Kgですが跳躍力に優れ、助走なしで1mの高さの構造物を乗り越えることができ、最高速度は45キロメートル程度、泳ぎも得意と意外な運動能力の高さ。また、地面から上に20cm以上の隙間があれば潜り抜けようとする。後肢だけで立ち上がることができ、成獣は犬歯が発達している。犬歯の側面は鋭利な刃物のような形状をしていて、とても危険です。体色は茶褐色から灰色と様々であり、子どもはウリ坊と呼ばれ縞模様が特徴です。体毛は太く、剛毛で電気を通しにくい特徴があります。

【イノシシの食性】 植物が約8割を占める雑食性である。ドングリ等の堅果類、草本類やその地下茎、根などの植物の他、昆虫、ミミズ、ネズミ、ヘビ等の動物も食べる。農作物ではイモ類、水稻、タケノコ、カキ、クリ等が被害を受けやすいとされています。

【イノシシの性格や知能】 警戒心が高く臆病で注意深い動物である。しかし、危険を感じたときや、過剰に興奮した際には攻撃的になる場合がある。また、人や人の生活環境に慣れると、行動が大胆になる場合があり、知能・学習能力が高く、記憶力も高い。人の活動や人の設置した構造物を学習し、柔軟に行動を変化させることがあるなど賢い動物のようです。

もしイノシシに遭遇したら、以下の点に注意しましょう！

✓ 刺激しない

イノシシは本来、臆病でおとなしい動物です。興奮している状況や至近距離で突然出会った場合には注意が必要です。刺激せず、興奮させないことが大切です。

✓ 静かにその場を離れる

イノシシに出会ったら、静かにその場を離れましょう。急に走り出すと興奮させてしまいます。イノシシに気づかれていない時や距離が十分にある場合には静かにその場を立ち去りましょう。

✓ ゆっくりと後ずさり

イノシシに視線を向けつつ、慌てずにゆっくりと後ずさりして離れましょう。建物や車などに入り、物陰に身を隠す、木に登るなどして安全を確保しましょう。また、犬を連れていると襲ってくる場合があるので、イノシシが向かってきたら犬を放しましょう。

✓ してはいけない行動

イノシシの進行方向をふさぐ、大きな声を出す、急に動く、棒を振り上げる、石を投げる行為はしないようにしましょう。

(*千葉県庁環境生活部自然保護課鳥獣対策班資料参照)

ごみの不法投棄が増えています！

～ごみ出しルールを守りましょう～

最近、町内のゴミ収集所や空き地に、布団・中身が入ったままの缶詰や食品、分別されていないごみ袋がおかれているケースが見受けられます。回収できずに残ってしまうと、悪臭や害虫の発生、カラスやイノシシ等による被害の原因になり、周辺の皆さまにご迷惑をおかけしてしまいます。改めて、ごみの出し方についてご確認をお願いいたします。

●布団は粗大ごみです

通常のごみ収集では出せません。

●缶・びんは中身を空にしてから・・・

中身が残っていると回収できません。中身を出し軽くすすいでからお出してください。

●収集日以外には出さないでください

ごみの不法投棄は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律により禁止されています。

✦ 粗大ごみとは 幅・奥行き・高さの合計が、概ね150センチメートル以上のものです

粗大ごみは通常ごみステーションには出せませんが、寝具やカーペット等、布類やプラスチック製の可燃性のものは、ご自身でハサミ等にて50センチメートル四方以下に切れば、指定袋に入れて燃やすごみの収集日にごみステーションに出すことができます。

————市原市で粗大ごみの収集・持ち込みする方法があります————

市原市の粗大ごみの持ち込み場所は、福増クリーンセンター(市原市福増124番地2)に搬入します。処理手数料は、10kgあたり200円(税込)です。また、1日の持込量200kgを超える場合は、事前に福増クリーンセンター事務所への届け出が必要となります。また、粗大ごみの収集を依頼する場合は、窓口申込みで粗大ごみ処理券を購入する方法と、電話申込みで納入通知書支払いをする方法がありますので相談してみてください。

連絡先:福増クリーンセンター(粗大ごみ収集受付等) 0436-36-1191

・・・月曜日から金曜日(祝日年末年始を除く)午前8時30分から午後5時15分まで・・・

※1年間ありがとうございました！

昨年4月からスタートした広報部も、1年が経とうとしています。ご協力ありがとうございました。



毎号の発行にあたり、一緒に活動して下さったメンバーをご紹介します。

・アドバイザー	:長嶋 栄治(4丁目地区長)
・部長	:大曾根 文雄(1丁目3区理事)
・副部長	:鈴木 龍(3丁目4区理事)
・班員	:工藤 啓介(1丁目3区17班長)
・班員	:谷口 公逸(2丁目1区22班長)
・班員	:金子 吉伸(2丁目3区3班長)
・班員(HP委員兼)	:小林 愈(3丁目4区26班長)
・班員	:稲毛 正彦(4丁目1区3班長)